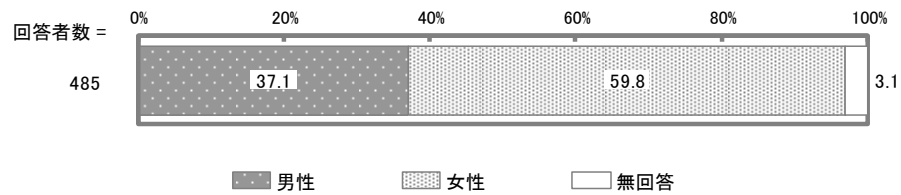


4 計画策定におけるアンケート調査結果

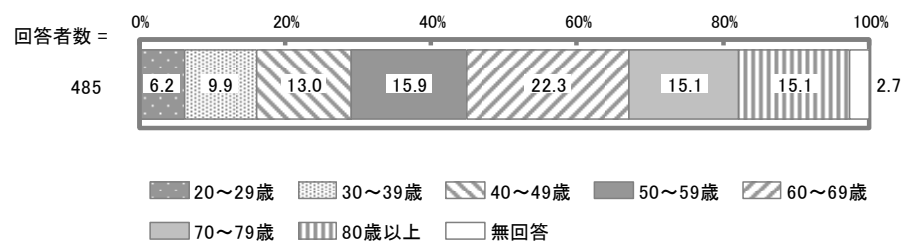
●（1）市民アンケート調査の結果

① 一般調査

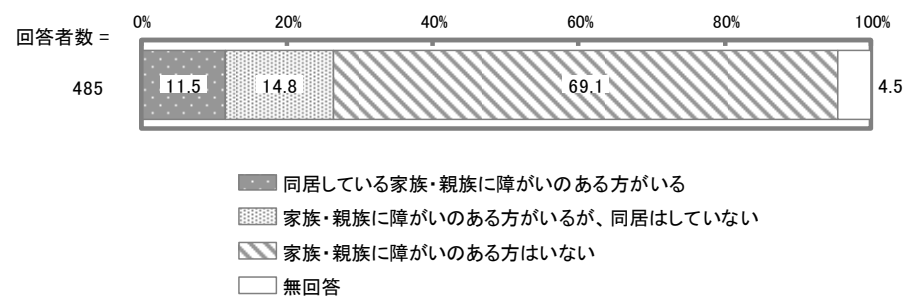
問1 あなたの性別をお答えください。（どちらかに○）



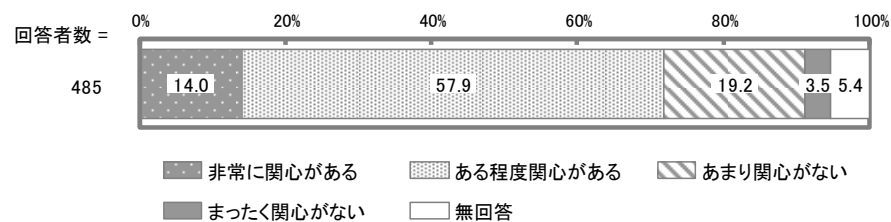
問2 平成29年4月1日現在のあなたの年齢をお答えください。（1つに○）



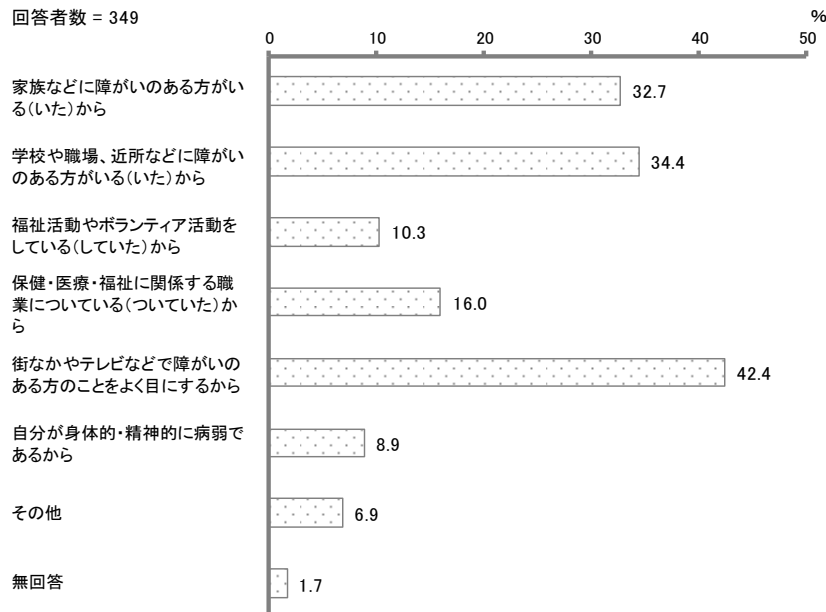
問3 あなたの家族・親族に障がいのある方はいますか。（1つに○）



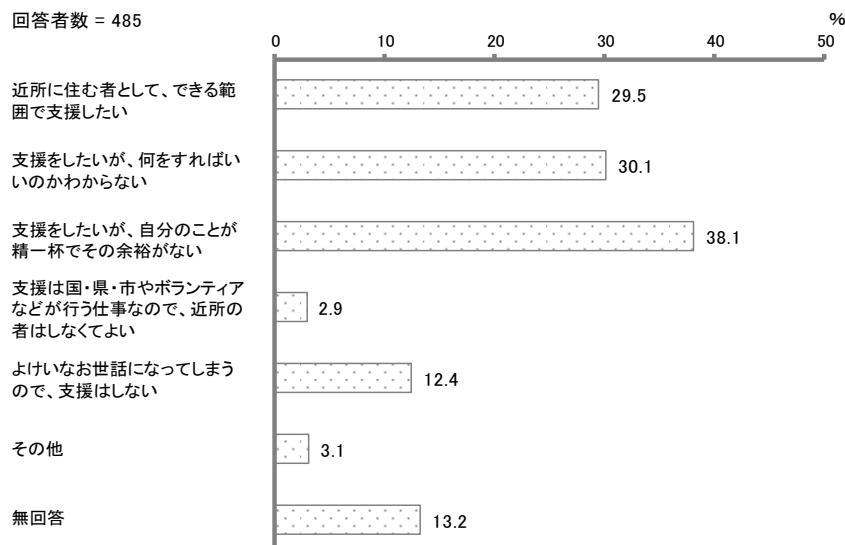
問4 あなたは障がい福祉について関心がありますか。（1つに○）



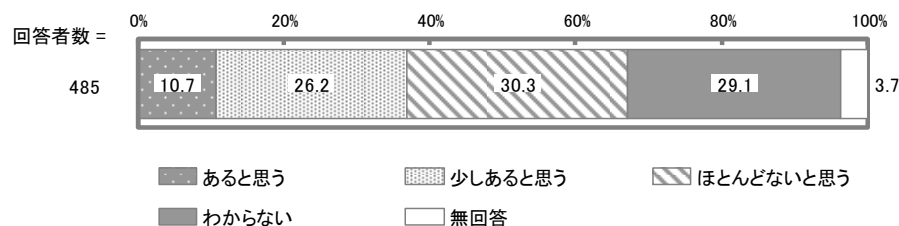
問5 問4で「1. 非常に関心がある」「2. ある程度関心がある」と答えた方にお伺いします。どのような理由から、関心をお持ちですか。(あてはまるものすべてに○)



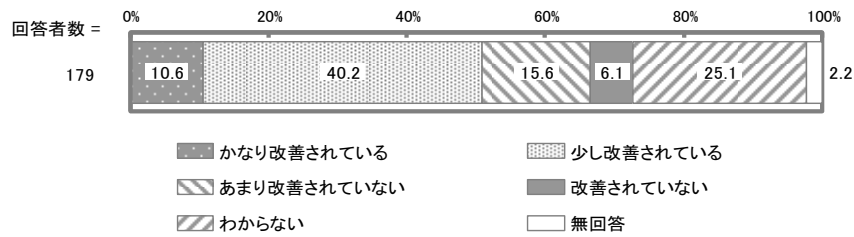
問6 近所に住む障がいのある方やその家族に対する日常的な支援について、あなたの考えに最も近いものはどれですか。(○はいくつでも)



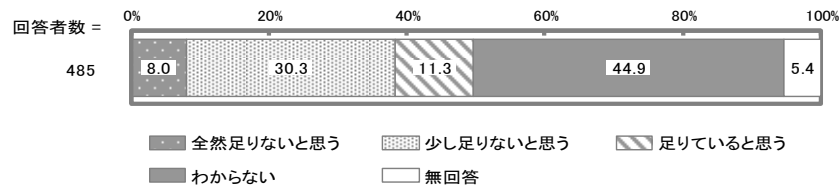
問7 あなたは、あなたが住む地域では障がいがある方に対して差別や偏見があると思いますか。(1つに○)



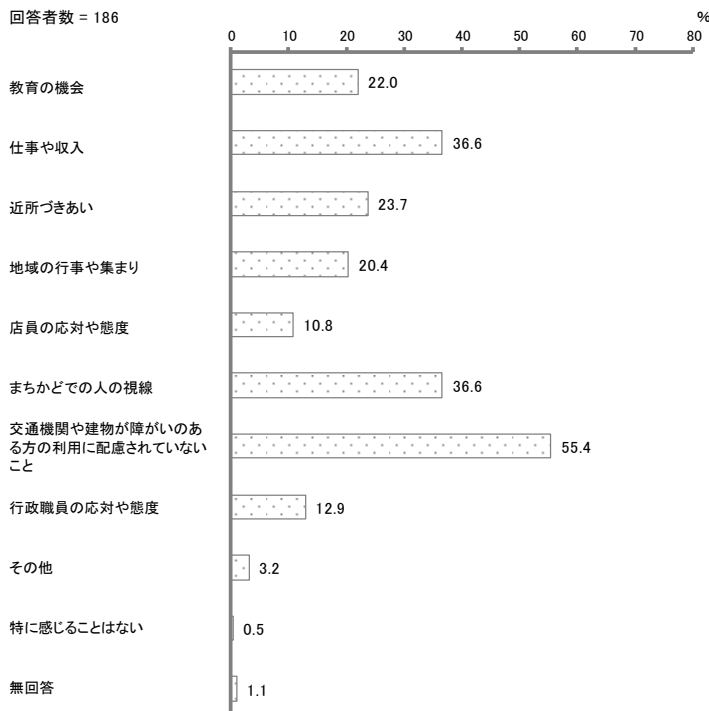
問8 問7で「1. あると思う」「2. 少しあると思う」と回答した方にお聞きします。以前と比べて、差別や偏見は、改善されていると思いますか。（1つに○）



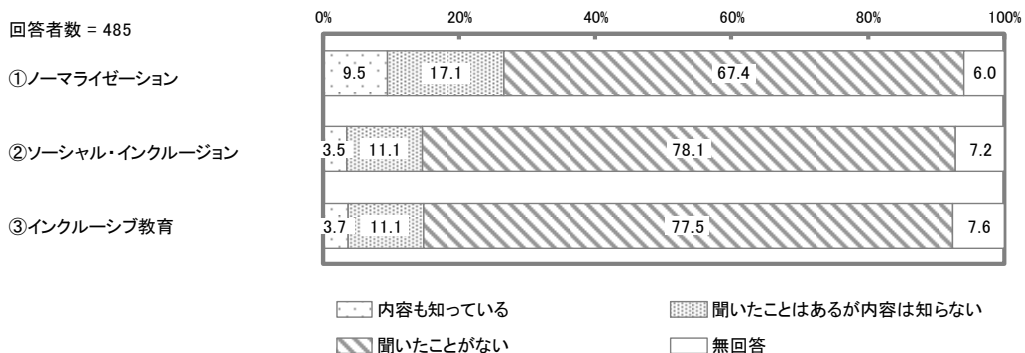
問9 あなたは、普段の生活の中で、あなたが住む地域では障がいのある方への配慮や理解が足りないと思いますか。（1つに○）



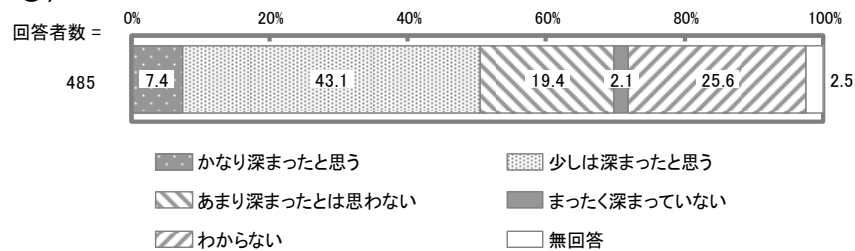
問10 問9で「1. 全然足りないと思う」「2. 少し足りないと思う」と回答した方にお聞きします。それはどのような場合ですか。（あてはまるものすべてに○）



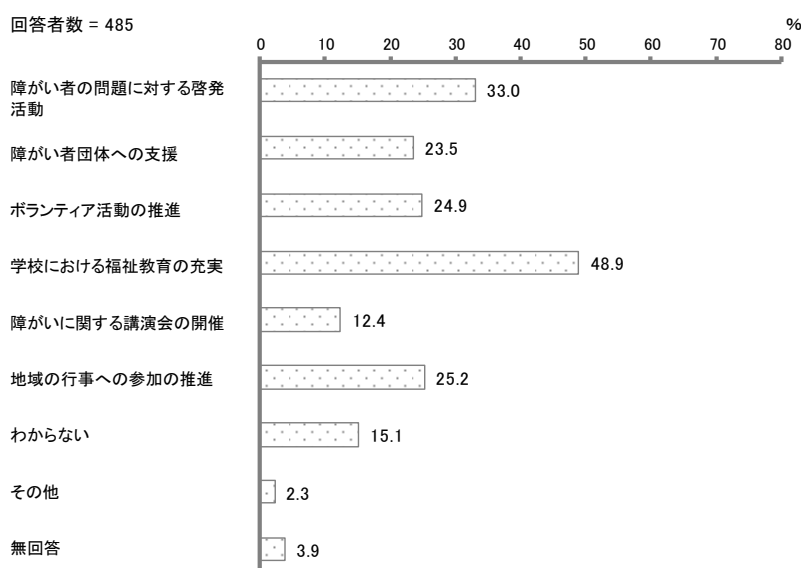
問11 次の言葉を聞いたことがありますか。（それぞれ1つに○）



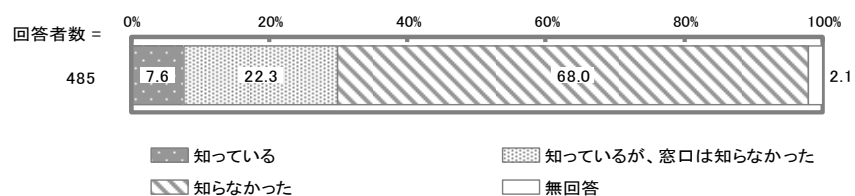
問 12 社会全体で障がいのある方への理解が以前より深まったと感じますか。
(1つに○)



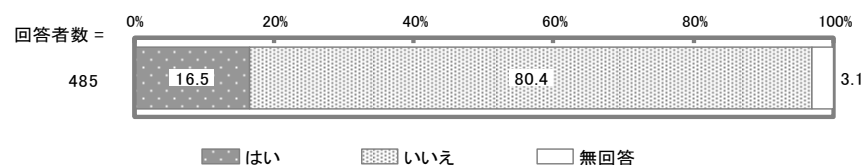
問 13 社会が障がいのある方への理解を深めるためには、何が重要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)



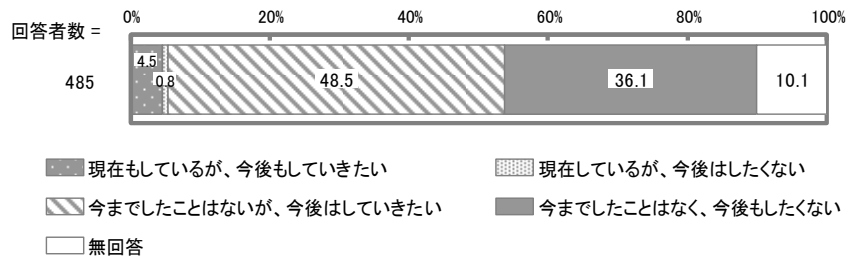
問 14 平成 24 年 10 月 1 日から障害者虐待防止法が施行され、障がいのある方への虐待を発見した場合、役所などへの通報義務がありますが、通報義務制度及びその窓口について知っていますか。(1つに○)



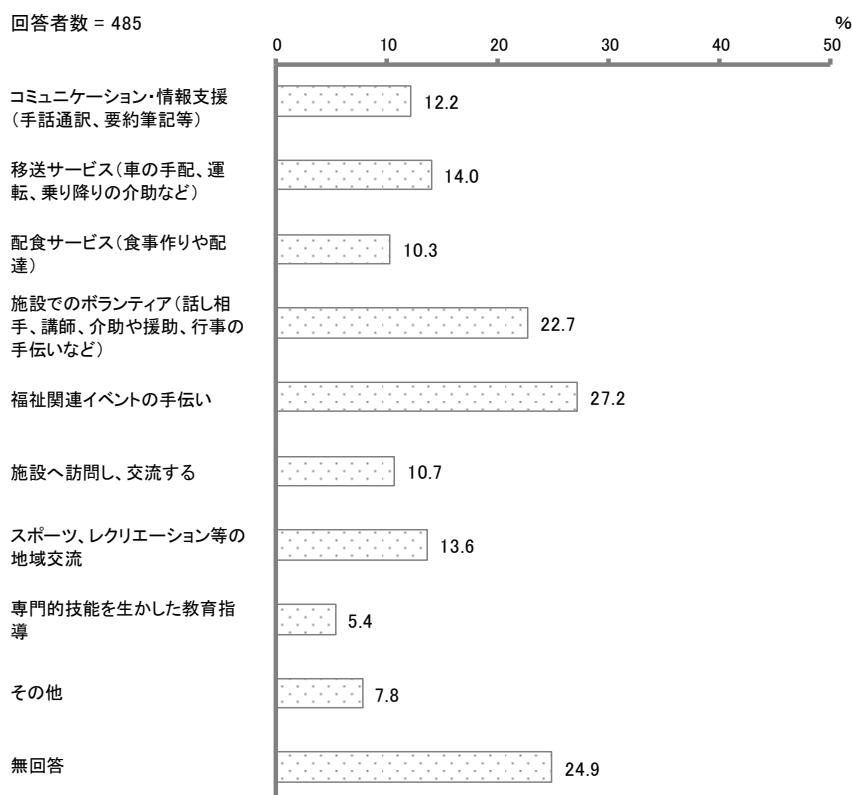
問 15 あなたは、平成 28 年 4 月 1 日から障害者差別解消法が施行されたことを知っていますか。(1つに○)



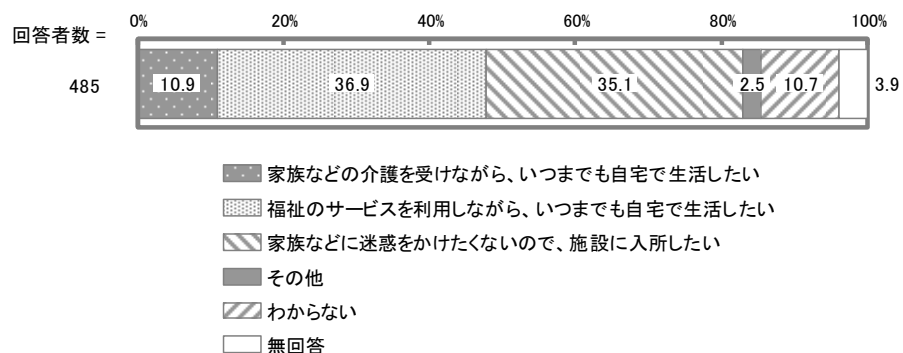
問 16 あなたは、障がいのある方へのボランティア活動をしていますか。また、してみたいと思っていますか。具体的な活動内容もお書きください。（1つに○）



問 17 あなたは、今後障がいのある方に対してどんな支援や活動をしてみたいですか。（あてはまるものすべてに○）

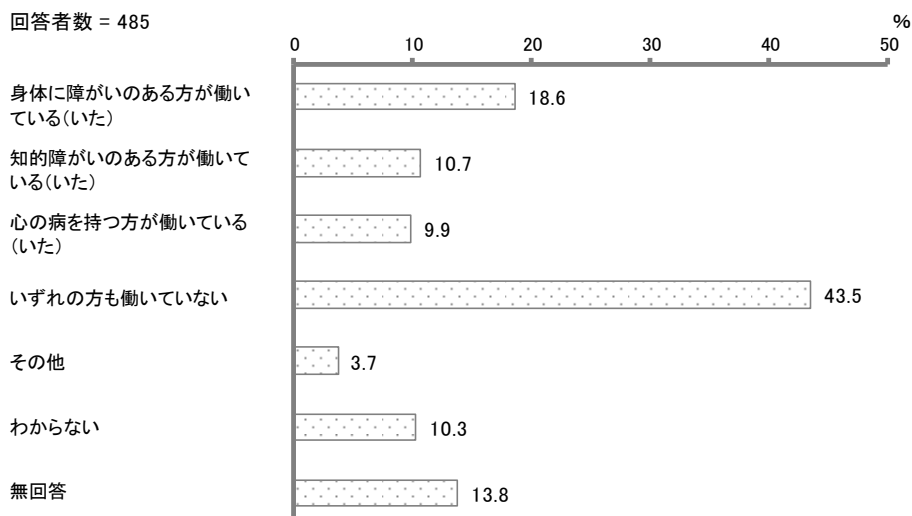


問 18 もし、あなたご自身が、介護（支援）が必要な状態になったら、どのように暮らしたいですか。（最も近いもの1つに○）



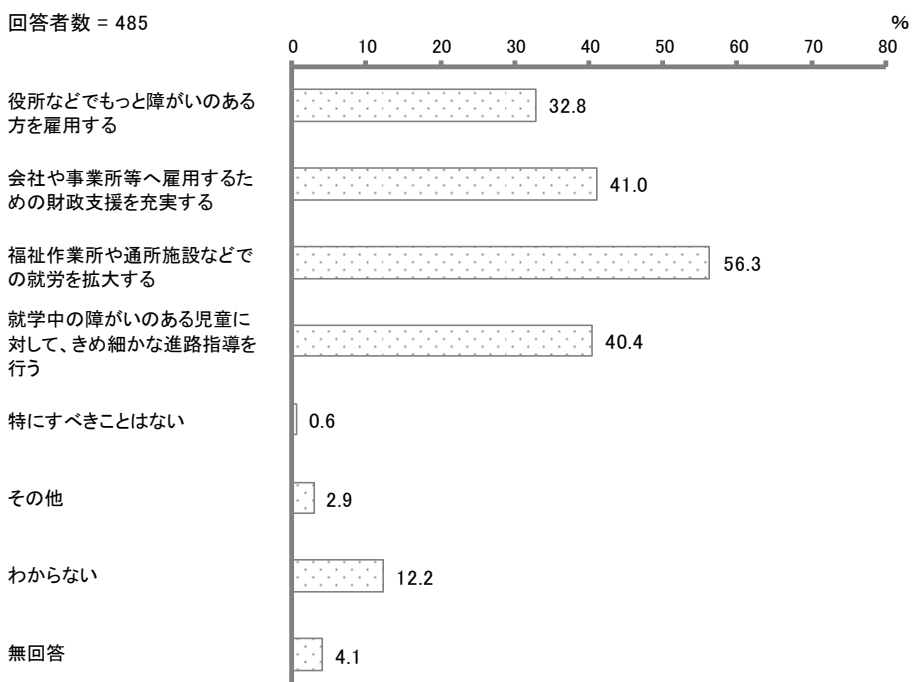
問 19 あなたの現在の職場では、障がいのある方が働いていますか。(いましたか。)
(あてはまるものすべてに○)

回答者数 = 485

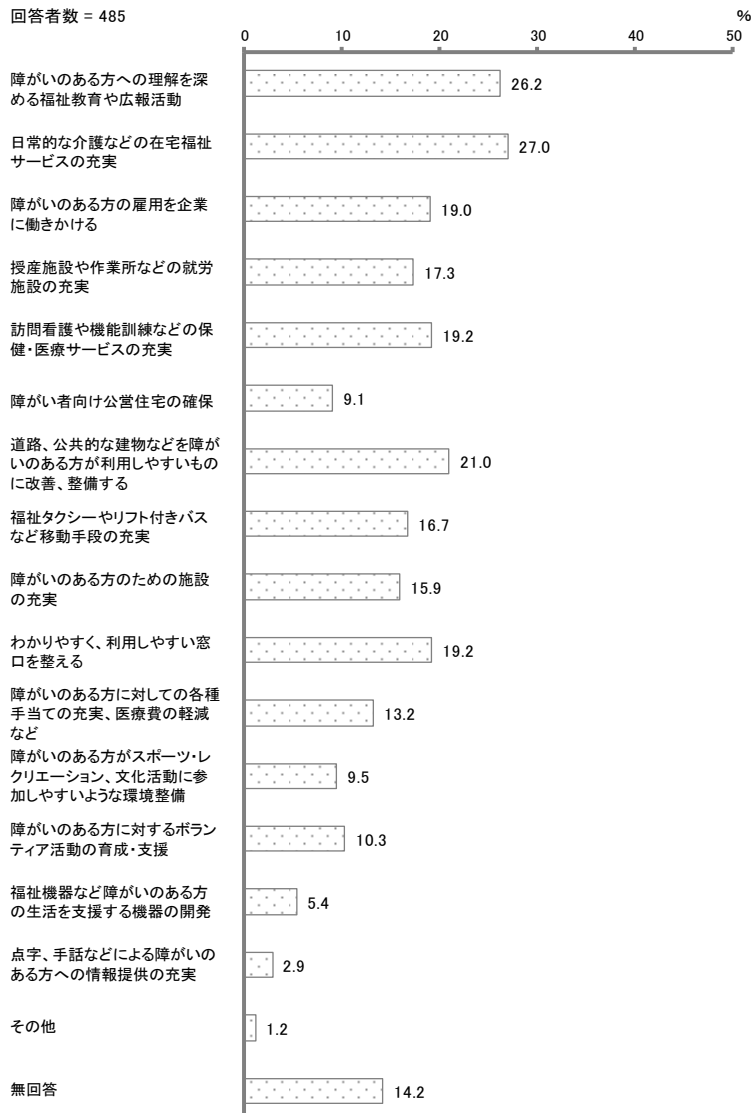


問 20 瑞浪市で障がいのある方がもっと働けるようになるためには、どうすればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

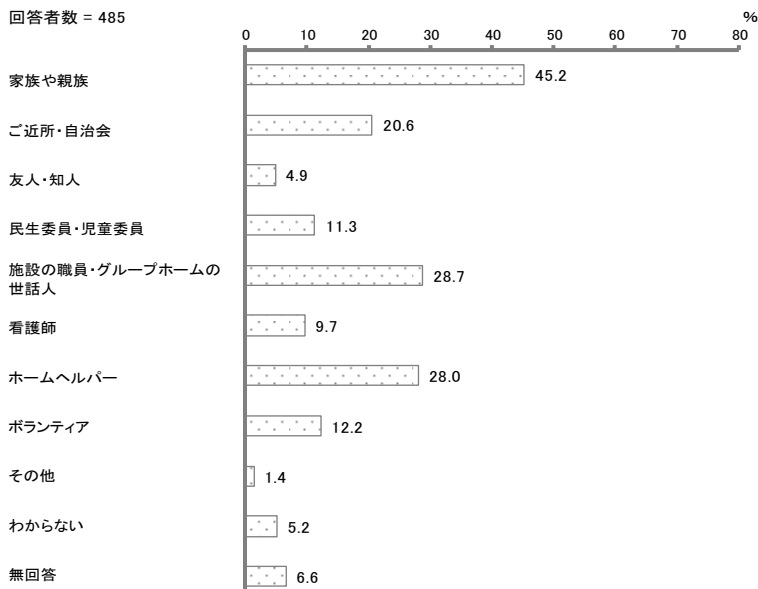
回答者数 = 485



問 21 障がいのある方にとって住みやすいまちをつくるためには、どのような活動が重要だと思いますか。あてはまるものをお答えください。（3つまで選んで○）



問 22 障がいのある方をサポートする支援者として、行政以外では、次のうちどなたに期待しますか。（2つを選んで○）



問 23 自由記載【原文どおり記載】

①福祉サービス全般

- ・精神障がい者としてサービスを受けている人に、本当にサービスが必要なのか。と思う人が多過ぎる。本当に困っている障がいのある方へのサービスが充実するとよいと思う。
- ・単独市の施策では限界があるので広域的に取り組むことが必要だと思います。
- ・障がい者とは何らかの原因によって日常生活及び社会生活に影響がでる制限を受けている人物を指すが身体障がい、精神障がい、発達障がいならびとして私的障がい等多岐にわたる。対象が広範囲に及ぶため個々の障がいに対応できる柔軟な施策が必要ではないでしょうか。具体的施策として経済的支援の限界もあるため、それぞれの障がい者に対応できるボランティアの育成が急務ではないでしょうか。
- ・障がいのある方の御家族が亡くなられた後に、自立した生活ができるよう一般労働の手助けが大切だと思う。受け入れ企業も必要なので、ソニー跡地等を利用し、企業誘致も積極的に行ってもらいたい。障がい福祉サービスの供給安定に不可欠な人材確保のためには資金の助成も必要だと思う。大きな地震や災害などが起きたときにも、避難所に指定されている施設のバリアフリー化(特にトイレ)も必要だと思う。教育現場では冊子の配布や、冊子を使った勉強だけではなく、障がいのある方の生の声で、本当の考えを聞ける時間を設けてほしい。
- ・障がいのある方の現状を理解していないですが、生活を維持できるように若い方には雇用対策と医療費の軽減を、年をとった方には、サポート支援者や在宅福祉サービス等、充実できたらと思います。障がいのある方へのますますの理解が市民に深まるよう願っております。
- ・発達障がいなど見た目にはわかりづらい障がいをもつ人々が生きやすい世の中になるようにどうしたらよいか。その人の持つ障がいを他人が理解し受け入れるのは難しい問題だと思う。それでもハンディもある人々を受け入れられるように福祉活動・広報活動を行ってほしいです。また雇用問題についても積極的に取り組んでいただきたいです。

②生活環境

- ・車椅子を利用する方のトイレが増えるとよい(お店・飲食店など)。
- ・道路の改善、特に山田方面の歩道が途中で切れている場所があります。障がいの方、子どもにとってとても危険と思われます。早く改善をお願いします。そもそも障がいという言葉は嫌いですが、すべてバリアフリーとなりどこへでも行けるようになったらよいですね。障がい者差別解消法をもっとアピールし、みんなが楽しく仲良く生活できるようになればと思います。
- ・障がいがあっても障害者手帳配布されない程度の人だ。調子が悪くてうまく歩けない時でも、障がい者用のものが使えないのでその点融通をきかせて配慮してほしいと思います。手帳を持っている人でも自分より調子がよさそうな時、ゆずってほしいと思います。

③交通・外出支援

- ・障がいのある方々が出かけやすい環境をつくるのが行政のまずやるべきことではないかと思います。バリアフリー・手すりなど、行くための手段である交通機関の充実とか、または理解しやすい案内であるとか。

④経済的支援

- ・あすはわが身で、すべての料金が安くできるようにお願いします。
- ・家族や親族が自宅でサポートする場合は、支援費を手当てするようにしないと、施設入居等になるのではと思います。

⑤情報提供・相談支援

- ・瑞浪市からパラリンピックの代表になる方がいるようでしたらよいかもしれませんが、現在そのような方が生活したり働いたりできる環境や企業が瑞浪にあるかどうかわかりません。パラリンピックは稀な例ですが、それくらい瑞浪市は暮らしている障がい者の方がどんな生活をされてどんなところで働いておられるのかまったくわかりません。市の財政をみると東京都のように高度な社会制度やきめ細かく整った公的環境(道路、エレベーター、バス、福祉施設)も難しく、気持ちとしてはこのままではいけないとは思っているものの、なかなか進めることは難しいだろうとも思ってしまいます。50名以上の法定雇用率とそれを達成している民間企業の実例をもっと広報してもよいのではないかと思います。
- ・困った時に相談できる窓口があるとよいと思います。
- ・市内の障がい者の具体的(実態)状況を示していただきたい。地域別に知ることが大切だと思います。
- ・社会全体という大規模な意見ではなく、まずは地域、市の意識をもっと高めるべきです。市でも、窓口の方だけでなく、役所全体が、もっと笑顔で対応できるようになって、受け入れていただけるとありがたいです(相談にくい雰囲気です)。
- ・瑞浪市の行事に障がいがある方も参加していただきたい。参加する場をつくってもらいたい。ボランティアに参加したくてもボランティアにどうやって参加したらよいかわからないので広報に載せてもらいたい。
- ・障がい者施設等が市内にいくつあるのか、場所はどこなのか、私はわかりませんので、案内用ポスター

等の配布もお願いします。

- ・プライバシーを守りながら、いろいろ相談できる窓口・施設があるとよいと思う。また相談後も親身になって先々まで管理していけるシステムがあれば、当事者も少しは安心できると思う。
- ・急速に高齢障がい者が(瑞浪市全体・各地域とも)増加すると考えられます。施設・支援者の増強によるサービス体制の充実を図ってほしい。高齢者に障がいに関する福祉教育や広報活動を定期的実施してほしい。(70歳・75歳・78歳・80歳に達した時。)
- ・現在47歳男性で、家族4人ですが、3級障がい者です。20年前に脳内出血で倒れ約1年半で障害手当金は切れしました。左半身不自由と視力がせまく、年齢が上がるにつれて障がいもひどくなっているようです。20年前のカルテも病院にないようですし、医者も当時の人は転勤して不明です。改めて障がいの再確認をするにはどうしたらよいのか不安です。国民年金もかけていません。親に生活費を援助してもらっていますが、高齢となり、いつまでも頼っておれません。なかなか、市役所の福祉課に相談も恥ずかしくいけないので困っています。
- ・どんな障がいの人がいてどんな手助けが必要なのか知らないことが多い。そういったことがわかるような冊子などがあるとよい。

⑥生きがい・趣味

- ・現在精神疾患のため休職していますが、一日中やることなく、家に引きこもる状態が続いています。アルバイトに行ける程回復しておらず、他にできることも思い浮かばず、ただ何かをしたいと思いますが、特に見つかりません。疾患はほぼ完治しているので、そういった障がいの程度の軽い者が参加できる教室等を開いていただけるとありがたいです。

⑦地域活動

- ・自分にできるお手伝いができるならば喜んでやらせてください。レクリエーション等、手品、歌とか。
- ・子どもからお年寄りまで広く交流できる機会を身近にとり入れてほしい。接することでよくも悪くも、人とのかわりをお互い学ぶことができると思う。お互い知るきっかけになると思う。
- ・地域住民の偏見がまだまだ根強い周辺地域の中で、安心して生活できる場所であってほしいと思っています。そのためにどんなことが必要かと聞かれましても今のところよくわかりませんが、行政の方で地域で集まれる企画を多くつくっていただけるとありがたいです。大萩町の場合は人口が少ない分、障がい者も少なく、その人たちだけの集まりは困難だと思います。よって高齢者の方と一緒に集まれる場、催しを計画していただけるとありがたいです。そんな計画をしていただけたら声をかけていただければ一緒にお手伝い等させていただきます。

⑧医療・医療費

- ・妻が20年前から土岐総合病院にお世話になっております。重ねてお世話になっております。
- ・障がいの学習をしてもっと障がいについて市民が知る必要がある。条例、法律(国)などでもっとサポート体制を強化する必要がある。障害認定ができる医師が少な過ぎる。医療関係の充実が必要だが、この施策が十分ではない。
- ・入院期間を長くできないでしょうか。(現3か月以内)を本人の希望により無期限とする。

⑨施設サービス

- ・公共施設(まずは学校、保育園など)に看護師の導入(経験のある)。以前保健センターに保健師がいる時、相談に行った。また、1か月訪問で無知の人がとても困った。
- ・もう少し施設をつくってあげたほうが家族の方も少しはたすかるのではないかな。

⑩就労

- ・障がいのある方が、一般の会社で働くうえで他の社員たちへの理解をしっかりと求めてあげてほしい。
- ・障がい者のできることを考えて、職場紹介をする。駅前か人通りの多いところで、障がい者によるショップ店を開店する。「みずなみブランド」製品を考える。みずなみの特産品として販売する。障がい者の話を心から聞ける人や場をつくる。
- ・施設に入ることができる人は、それなりの支援が受けられるが、入ることができない人をどのように支援するか。障がいのある人が企業で働きががんばる姿はとてもよいと思うが、その企業ははたしてどうかと思う節がある。
- ・息子は出生時手術をして、後遺症として障がいが残りました。中学卒業時、進路を決める際に初めて、県の指導者の方にお会いし、障害年金の申請をするよう言われましたが、市役所では受けてもらえませんでした。その後県の障害判定のたび、障害年金の申請をするよう言っていただきましたが、そのたび市役所の福祉課では難しいから無理との返事でした。会社をリストラされ、国民年金を払うのも大変でしたが、支援センターの方の助言をいただき、病院申請の仕方などいろいろ助けていただきました。福祉課では早くて3か月・6か月はかかると言われましたが、2か月かからず障害年金を支給していただくことができました。感謝しております。私がどうしても納得がいかなかったのは、県の方から申請してくださいと言われていたのに瑞浪市役所の福祉課では、申請は無理と言われつづけたことです。今後このようなことがないよう、よろしくお願

いします。瑞浪市は障がい者に対する雇用を受け入れる事業所・会社の理解がないと思います。

- ・ 交通需要。健常者でも仕事がないのに障がい者をもっとないと思う。障がい者が自らできるような、アイデアを出す助けになる指導者や場所はないでしょうか。
- ・ 看護師の免許をもっていても、給料が安く働けないという意見を聞いたことがあります。

⑪自立・自助

- ・ 問 22 の質問にきて、ハタと手が止まってしまった。行政以外となると、この時代個人のプライバシーを優先するあまり、近隣住民の病歴などは表に出ず、近くにそんな方がと驚く場合すらある。認知症で被害妄想があればもちろん手も出さない。また 65 歳まで働く時代(へたすれば近未来は 70 歳まで年金受給が伸びるかも)それからボランティアとなると、もうされる側になってしまっている。障がい者も程度によっては、ボランティアされるばかりを考えるより、してやるという発想も少しはあってもよいのかもと考えたりします。家族に負担をかける(子どもたちも 70 歳くらいまで働かねばならない時代で親の介護は無理)。結局自分1人が残ったら施設か。団魂世代、入る施設も不足している。じゃあ手厚い看護・介護はなしにしてもらい、もちろん延命治療も拒否して孤独死か。そういう風にならないよう、健康には気を付けようと思っている。
- ・ 十人十色で障がい者それぞれの程度により、対応することが必要です。自立機能を高め、身体共にサポートをしていくことが大事です。住環境の整備がなにもないので、同じ社会で支えることが大切です。老々介護のこの世の中です。老若男女すべてが理解していくことです。

⑫障がいへの理解・啓発

- ・ 障がいといいますが、何でも知的や身障だけが障がいではありません。障害者手帳もありませんが、性同一性も障がいがつくので、あくまで障がい者に入ります。よい感じはしませんが、もっと障がいの知識を広くもってほしいです。その中で知的障がいや身体障がいそして性同一性障がいの人も気持ちよく暮らせ、働けるそんな市にしてください。田舎ほど理解が遅れており、受け入れてもらえません。瑞浪は好きなので性同一性を受け入れてくださるとうれしいです。イベントをひらく、講演をひらく、何かしらやれることはあります。都会にだけ性同一性(LGBT)がいるのではありません。
- ・ まずは障がい者本人に聞くことが大事だと思います。人それぞれに希望もちがうから。
- ・ 体験者の意見をよく聞いて一番困ったこと・助かったこと・こうしてもらえたらよかったこと等いろいろとあると思うので、それを基に障がい者が少しでも快適に日々を過ごせるように。
- ・ 共存・共栄のできる明るい社会の現実を希望します。
- ・ いろいろな障がい者が居るように様々な接し方があると思います。しかし健常者は自分ができることは誰でもできると思いがちです。接し方が皆にわかれば手助け等しやすと思います。マニュアル等があれば、離れて見ていた人も介助してくれると思います。
- ・ 障がい者が自分自身の考えを伝えられる環境を大切にしたい。
- ・ 健常者も障がい者も同じ人間です。世の中が皆平等になんてことは不可能なことです。その人がよりよく生活できるように一人一人が意識を持つことが大切だと思います。また小学校、中学校でも障がい者の方と一緒に学ぶことを積極的におすすめしたいです。また大人が子どもに障がいを持つ方への偏見の目をなくすことを教えていくこと、自分が生きていくうえで無関心にならないことなど、ごく当たり前のことを大人がお手本になってあげること。正直何をどうしたらよいか、具体的なことはわかりませんが一人一人の思いが改善につながるのではないのでしょうか。
- ・ 日本ではまだまだ、かくす方向の対応がみられます。「守る」ことを考えると仕方ないかもしれませんが、実際私も、彼らへの知識が乏しく、「知らないものは何となくこわい」と感じてしまい、身構えて接してしまう所があります。ただ、まったく避ける、関わらないという選択はありません。なぜなら子どもの頃、同じ学校に障がいをもつ子が共に通っていたからです。少しだけ知っているのも、身近とまではいなくても気になるのです。でもすべてはそこからだと思います。皆がまず興味をもつこと。相手を知ること。大人からでは難しいと思います。小さな頃からできるだけ共に過ごし、肌で相手がどういう人か、感じることを重ねていけば理解のある人が増えていき、もっと垣根が低くなると思います。障がいのある人を守る立場の人、親などからみれば、心配だと思うのですが、もっとお互い知り合ってちょうどよい距離がわかる関係がつかれるとよいと思います。
- ・ 障がいのある人への理解する心と自分と違う立場の人を理解し認めることのできる心を子どもの時から教育し、親や社会もゆとりをもてる心ができないと共存は難しいと思います。
- ・ 障がい者の方への偏見を親や大人からなくしていきたいものです。一生懸命学校で「平等に」、「みんなちがってみんなよい」と道徳教育を受けても大人の心ないひと言でくずれてしまいます。
- ・ 障がい者への偏見が少しでもなくなり、平和な暮らしができることを願っています。自分も含め、誰もがいつ障がい者になるかわからない意識を持つことが大切だと思います。
- ・ 障がいのある方への声のかけ方、支援の仕方等、よくわからず、相手の方に失礼ではないかと、ついつい見て見ぬふりをしてしまいがちです。障がいのある方と、実際にふれ合う機会があると、今よりもっと自然に接することができるのではないかと思います。
- ・ 障がい者のためのQOLは必要であるが、必要以上の線引きや意識を感じない施策によるものは障がい者自身の向上心を生み出せない。
- ・ 障がいのある方はもちろん、家族の方も大変だと思います。健常者が声をかけたり、手を差しのべたりする時、障がい者の方がどう受け入れるか、ここにコミュニケーションがなかったらやはりおせっかいになってしま

うので、大変難しい場合もあります。話し合いですね。障がいのある方が運転される時は車に障がい者が運転もしくは同乗していることを示すシールのような物を貼ることは約束されていますか。ぜひ貼ってほしいです。他のドライバーは気をつけます。

- ・ 先天的な障がいはある確率である。有性生殖の宿命と聞く。たまたま障がいがなく生まれた人は、障がいを持って生まれた人に関心を持たなければいけない。行政は画一的にしないでほしい。平等公平ではないから。察し付けた指導・教育は難しい。本人が目的のために欲している情報の提供が必要。個性・性格などを考え、それぞれが持っている能力が発揮できれば最高。その人が生きがいをもって喜んでできることが望ましい。仕事と考えず、楽しむこと、楽しめることを目標に。周りの人も元気をもらえる。これは福祉に限らない。
- ・ ノーマライゼーションが当たり前の社会になりたい。障がい者は1つの特性であり普通の人間として尊重されるべき存在であると考え。だから必要に応じた現況の意識は整えられるべきであるが、ことさら障がい者を取り上げて過度な押し付けや障がいを持つ方が引け目を感じるようなことにつながらないように思う。障がい者も障がいをもっていない者も共に大切な存在として尊重されることが大切。障がい者の自立を妨げるような過度(的外れ)な施策ではなく本当に必要としていることに耳を傾け障がいを持つ方が心豊かに社会の一員として胸を張って生きられるような施策を期待する(つまり障がいのある方のことに耳をよく傾け心の中の声を施策に。大いに期待する)総合文化センターを利用してみんなで歌う集い、瑞浪福祉の歩み展など、誰でも参加し合える多彩な催しも期待します。
- ・ 仕事で障がいのある子どもたちと過ごす機会がありました。その笑顔・優しさに私自身がいやされたり、元気をもらったりしました。ただ一方で、自分をコントロールできない子どもたち、若い世代の方が、同じように過ごし、理解があるように感じます。どの世代の方にも1つの個性だと、自分も助けられることがあり、人と人との助け合いだと、理解される社会がくることを願います。
- ・ 差別のない社会の充実を期待します。
- ・ 身近に障がいのある方がいないため、接し方が今一つわからない。差別扱いのようなことをしてしまいそうです。そんな教育を皆さんにしてほしい。

⑬療育・教育

- ・ 健常者に対する組織的な教育の必要性、新しいボランティア文化の育成。
- ・ 障がいのある方の少しでも役に立てたらと思いますが、育児中の限られた時間の中ではなかなかできないのが現状です。でも空いた時間等に点字や手話等を覚えたいと思っていますが、参加できる場がありません。親が障がい者への偏見を持たなければ子どもたちもこれからそのような方と接する機会があった際に何を話すべきかどのように接するか自分で少し考えてくれると信じています。まず子ども連れで参加できる機会、そして小学生や中学生にも学べる場があればよいと思います。
- ・ 障がいにも様々なものがあるので、支援や整備の方法も異なると思います。瑞浪市は就学前の健診などで、発達に遅れがある場合でも「様子をみましょう」で終わってしまうと聞いた。年齢が低いうちにきちんと支援していくことで、発達を助長したり、自立を促したりすることができると思います。多治見市では1歳半健診で気付いてすぐに支援する施設へ告げてくれています。瑞浪市はぼけつとありますが、特別な支援が行われていないように感じます。個々のつまずきに合わせた支援が行える支援員を確保していく必要があると思います。多治見市は個別指導、グループ指導などその子に合わせ支援も変えられています。年齢が低いうちから支援していくことで、就学するまでに成長できる子もいると思います。そうすることで障がいと呼ばれる方も減るのではないかと思います。

⑭障がい者の家族への支援

- ・ 障がい者自身からの希望、要望はなかなか満足な答えは得られないと思いますので、周囲の身近な人が一番、当人はもとより、信頼し理解している存在だと思います。障がい者本人、ならびに障がい者を心身共に支えている家族や施設の職員の方々のご苦労に少しでも支援できる施策の充実こそがこれからの社会で最も大切だろうと考えています。
- ・ 障がい者の家族が孤立しやすい。障がいを認めたくないという心情もあり、世間から孤立しやすい。恒久的な福祉教育を根本に本人なり家族が相談しやすい窓口・相談員の充実。まわりから手をさし伸べることが美德とされる風潮があるが、本人や家族が積極的に援助・支援を求められるような当たり前の社会をめざす。
- ・ 障がいのある家族や親族の交流の場が増すとよいと思う。
- ・ 障がい者をもつ家族への支援(精神面でも)がもっと増えてよいと思う。
- ・ 障がいのある方の家族の負担をできるだけ軽くして、社会全体で支える体制づくりを願う。
- ・ 障がいのある方の家族の方へのサポートも大変だと思う。障がいのある方の賃金アップ→家族の人が助かる。介護する方の賃金アップ→人手不足解消。
- ・ 障がいのある方のいる家族の心を開くための集まりなど周りで支える人のケアや支援も重要だと思います。特に目で見えてわかる障がいではなくわかりづらいグレーの方や、心的な障がい児を持つ親御さんは自らがまず受けとめられず、対応や支援が遅くなってしまうので、何かよい方法があるとよいと思います。勉強会や話し合いの場、悩みを打ち明けられるとすごく楽になると思います。
- ・ 障がい者を介護している家族が一番大変だと思います。介護している人(家族)に支援をしていただけたらといつも思っています。

- ・このように行政が前向きに種々の施策を行ったり近くの方々が前向きに考えてくださったりする反面、障がいのある方を家族にもつてみえる方が今以上にオープンに前向きなことも大切なのではないかと思います。家族で障がいのある方を隠す(家の中から外へ出さない)ような光景もよく見ます。

⑮アンケート調査

- ・身体的な障がい者の方と分けて質問しなくてもよいのですか。そこで回答が大きく違ってくると思います。正直、精神に障がいのある方と共存生活を送るのはとても難しいと思います。どこまでをあてはめて、どこから特別扱いをするのか、その線引きがあいまいなうちは実現してほしくないです。以前、精神障がいをもつ男性が信号を無視し、横断歩道を渡り始めてしまうところを目撃してからは、自分が車を運転していたらと思うと怖くて仕方ありません。また、知り合いの女の子が髪の毛を舐められた時、ショックで泣いてしまいましたが、警察の方も取り合ってくれず、後見人の方は謝罪の手紙をくださいましたが、その後も舐めた方と会う度に怖くて震えてしまうという話を聞いたことがあります。それ以来考え方が変わりました。もちろん、一部だということは知っています。ですから、その線引きとなる認定基準があいまいなうちはできることはないですし、できるかぎり遠ざけてしまうことを選びます。無責任ですが、お互い様だと思います。長文失礼しました。
- ・サービス・充実・支援・医療・医療費等、公共の費用、または人、そればかりの支援を考えていてもよくならない。自活する方法とかを考えていかなくては。お金さえ出せばよい(つかえば)等、出費をおさえてできることを考える。今回のアンケートでも内容があまりにもサービスとか、充実・軽減等あり過ぎる。こんなアンケートでよいのだろうか。もう恩恵をうけている人もいるはずだ。裏をかいて金をねらっている人も。
- ・施策に関することではありませんが、10年程前に他府県のある駅でのこと、階段にはスロープがなく車イスの男性はとても困ったのでしょ。大きなどなり声で周りの人に皆で車イスを上まで運べと命令していました。整備されていないことが一番の問題ですが、車イスの男性の発言も問題だと思いました。結局どなたも手伝いませんでした。今回のアンケートはとても難しかったです。自分のことで精一杯の方が多くいのではないのでしょうか。
- ・障がいと一口に言っても程度もあるし、他害があるかどうかによっても大きく違うと思います。地域で受け入れたい思いもありますが、小さい子どもの親としては他害のある人については受け入れがたいです。このアンケートについても、どのような人を想定したらよいのか少し答えづらかったです。
- ・障がいのある方がどなたかわからなくなった。当初、要介護の老人も含めてよいと思い回答を進めたが、問14あたりから障害者手帳を交付されている方が対象なのではないかと思った。問18でやはり老人も含めて考えてよいのかと思った。心身に何らかの不自由がある人全般に対してのアンケートでよかったですのでしょうか。

⑯その他

- ・私の近所に障がいの方は住んで見えませんので、あまりよくわかりません。
- ・障がいのある方に出会ったことも見たこともないからどうしたらよいのかわかりません。
- ・障がいのある方自身も「私は障がいがあるから周りの人が私にすべて気を遣うよう生活すべきだ」という解釈をすてるべきだと思います。
- ・障がいのある人が支援を受けて当然。受けるべきという考え方が適切なのであるか疑問である。
- ・瑞浪市が市民・障がい者に優しい市であると思います。
- ・私の子ども、三女の娘が支援していただいています。本当にありがたく思っています。
- ・施策に対する意見ではありませんが、一言に障がいには様々な状況がある訳で、同情致しますが、気を遣っておせっかいになったり、本当に手を借りたい方もいたり、接し方が難しいと思っています。
- ・障がいのある部位は人によって違うので、今の自分には具体的に何をすればよいのかわかりません。意思疎通ができれば身近な人であれば意見を言うてくるので、過剰な施策にならないようにしてください。
- ・国や県、市等が充実した施策を計画し、それを実行してもその中で働く人たちの意識改革がなければ本当の福祉国家とは言えないのではないのでしょうか。また私たち個人一人一人が自分自身のこととして、家庭で常にそういうことを話し合う場を設けることも大事なことだと思います。
- ・健康でくらしていてもいろいろあるので、体が不自由な分、人一倍がんばらないといけないので大変だと思いました。
- ・市役所の受付はいつも座っているだけで、あいさつもしない。ただ座っているのであれば、足が不自由な方であいさつや応対できる方でもよいと思う。でも年功序列の給料はやめてほしい。
- ・家族、親族、ご近所に障がいのある方がおられないですが、現実的には困った方がみえると思います。人様には親切に言葉をかけ、喜ばれることはさせていただきたいと思います。
- ・障がい者と接する機会が今までほとんどなかったため、障がい者の方や家族の方がどのような悩みをかかえているのかとか、考えることがほとんどありませんでした。
- ・必要な施策、支援、ニーズに関してはやはり直接当事者や障がい者とその家族に聞くべきです。
- ・申し訳ないが、身近にそういう方がいないので、どうも想像ができません。少し目を向ければ、いらっしゃるとは思うのですが、かかわったことがないので、どうも関心がうすいです。
- ・関係ないことかと思いますが、よく耳にすることの1つ、独居老人国民年金で生活している者のひとりごと。「障がい者の中にもいろいろあってそれぞれに大変だということはよくわかるけれど、中には大きな車や新車そしていろいろ援助があって裕福そうに見えるし楽しそう。これはひがみだろうか。私も生活保護を受けたい

くらい。障がい者でもないし。」障がいを持って見る方、障がいにもいろいろあるからなんとも言えないけれど、中に「返納した」という人もあると。障がいのある方やその家族はいろいろ大変だと思いきえさせられる。独居老人のひとりごとでした。他人事ではないと。

- ・ 実際になってみないと細かい所がわからないので、車イスとかで街中を移動してみたりするとよいです。自分は厚生病院に入院していましたが、図書館に行く時とても難し過ぎました。ほんの少しの段差が越えられないのです。障がいのある方にどうするかも大事だと思いますが、黙って見守ることも大事だと思います。怪しい宗教と思われると思いますが、三軸修正法と機能姿勢がわかるといつでもどこでも立っていても寝ていても瞬時に身体と心も楽になるので学んでほしいなと思います。
- ・ 身近に障がい者がいないのでわかりづらい。
- ・ 障がいのある方と接したことがないので心得ている。すべての内容をうまく体験してないので、満足に答えられませんでした。お許しくださいませ。
- ・ 自分の身内や身近な人など自分の周りにいないのでなんだかピンとこないというのが正直な意見です。だからどう協力したらよいかわかりかねます。きっと私のような考え方の人はそこそこいるのではと思います。自分の生活も決して楽なわけではないのでなかなか他人を思いやれる余裕がありません。障がいのある方と接触する機会があり、助けのいる場面であれば手助けしたいとは思っています。例えば困っていて助けを求められたりしたときなど。ほんのささいなことしかできませんが、できる限りで。
- ・ 障がいとは、どこからどこまでが障がいかわからない。